

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道7号 <small>しばたかくふく</small> 新発田拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北陸地方整備局																								
起終点 自：新潟県新発田市奥山新保 至：新潟県新発田市三日市	延長 5.8 km																									
事業概要 国道7号新発田拡幅は、「交通渋滞の緩和」「地域振興・活性化」などを目的とした延長5.8kmの4車線の現道拡幅事業である。																										
H3年度事業化		H2年度都市計画決定																								
H6年度用地着手		H12年度工事着手																								
全体事業費	340億円	事業進捗率																								
		31%																								
		供用済延長																								
		0.9km(完成4車線)																								
計画交通量																										
22,000～35,000台/日																										
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>(事業全体)</td> <td>1.2</td> <td>(残事業)/事業全体</td> <td>168 / 296 億円</td> <td>(残事業)/事業全体</td> <td>290 / 342 億円</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>1.7</td> <td>事業費：151 / 276 億円</td> <td rowspan="2" style="border: none;"> 維持管理費：17 / 19 億円 </td> <td>走行時間短縮便益：269 / 317 億円</td> <td rowspan="3" style="border: none;"> 基準年 平成22年 </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>走行経費減少便益：14 / 17 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益：6.9 / 8.2 億円</td> </tr> </table>	B/C		総費用		総便益		(事業全体)	1.2	(残事業)/事業全体	168 / 296 億円	(残事業)/事業全体	290 / 342 億円	(残事業)	1.7	事業費：151 / 276 億円	維持管理費：17 / 19 億円	走行時間短縮便益：269 / 317 億円	基準年 平成22年			走行経費減少便益：14 / 17 億円			交通事故減少便益：6.9 / 8.2 億円	基準年 平成22年
B/C		総費用		総便益																						
(事業全体)	1.2	(残事業)/事業全体	168 / 296 億円	(残事業)/事業全体	290 / 342 億円																					
(残事業)	1.7	事業費：151 / 276 億円	維持管理費：17 / 19 億円	走行時間短縮便益：269 / 317 億円	基準年 平成22年																					
		走行経費減少便益：14 / 17 億円																								
		交通事故減少便益：6.9 / 8.2 億円																								
感度分析の結果																										
残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.8（交通量+10%） B/C=1.6（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.6（事業費+10%） B/C=1.9（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=1.7（事業期間+20%） B/C=1.8（事業期間-20%）																										
事業の効果等																										
①まちづくりを支援 ・城下町新発田市の環状道路の機能を強化し、中心部の歴史的街並を活かしたまちづくりを支援 ②三次医療施設へのアクセス向上 ・三次医療施設である県立新発田病院へのアクセス向上 ③冬期における円滑な交通の確保 ・冬期間における走行性の向上 ④災害復旧活動の支援 ・自衛隊新発田駐屯地から高速道路へのアクセス時間の短縮 ⑤通勤支援 ・渋滞が緩和され新発田市関連の自動車通勤時間が短縮 ⑥緊急輸送道路の信頼性確保 ・老朽橋の架替により緊急輸送道路の機能確保																										
関係する地方公共団体等の意見																										
地域から頂いた主な意見等： ・国道7号新発田拡幅は、日本海側の広域幹線道路となっている他、新発田市中心市街地の環状道路としての役割を担っており、市街地の渋滞緩和、地域産業の活性化への寄与の他、広域的幹線ネットワークとしての機能強化、アクセス向上によるまちづくりの支援、救急搬送による救命率の向上など、期待される効果が大きく、新発田市から事業の早期整備の要望を受けている。																										
県知事の意見																										
・地域住民の安全・安心の確保や沿線地域の振興のため、事業継続の必要性は認める。 ・ただし、現在実施中の日東道無料化社会実験の結果を見据え、今後、高速料金体系の変更が伴う場合は、事業計画の見直し等の検討が必要と考える。																										
事業評価監視委員会の意見																										
・審議した結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。																										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等																										
国道7号と並行する日本海東北自動車道(新潟中央IC～荒川胎内IC)において、高速道路無料化社会実験を実施中。																										
事業の進捗状況、残事業の内容等																										
事業の進捗状況：平成22年度末で事業費107億円、進捗率31%、そのうち用地費は25億円で進捗率50%。																										

<p>残事業の内容 : L=4.9kmの4車線化整備。</p>	
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後の交通状況を見据えつつ、用地協議の進捗にあわせ中曽根町交差点～小舟町交差点間の用地買収・補償及び埋蔵文化財調査や加治大橋の対策を実施する。</p>	
<p>施設の構造や工法の変更等 植栽帯設置箇所の見直しや、施工段階での新技術の活用等により、コストの縮減を実施する。</p>	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。
事業概要図	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。